

「ウィルタネン彗星 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

通常の彗星は、内惑星（金星と水星）と同じで、太陽に近くなると増光しないので、日の出直前か、日没直前の地平線近くでしか見られない。しかし、今回のウィルタネン彗星は、地球よりも外側の軌道で増光しそうなので、ほぼ一晩中観測できる。

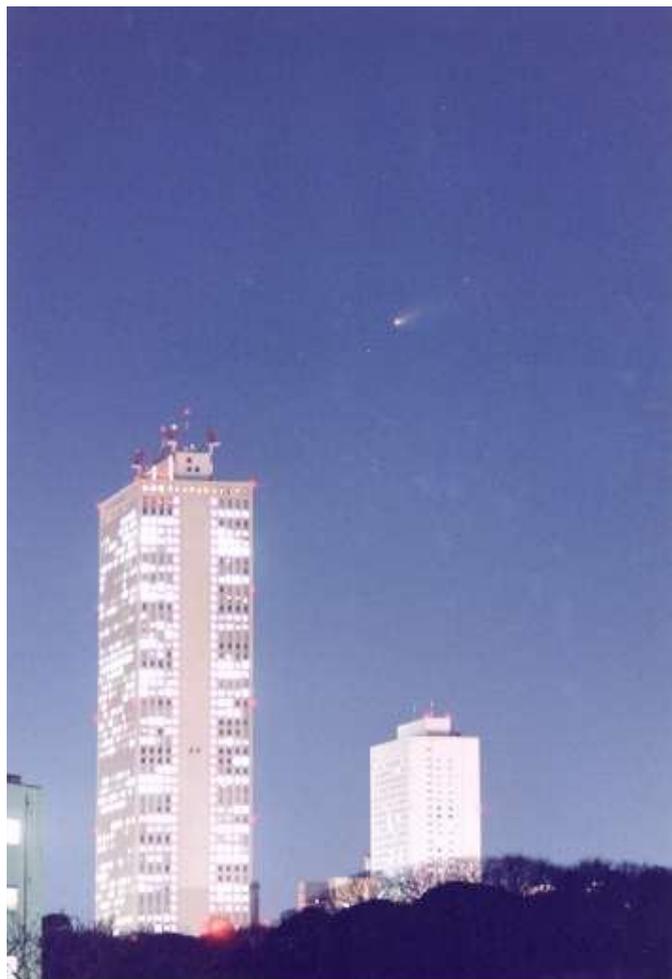


これは「ステラナビゲーター」(天文シミュレーション・ソフト)で計算した、12月13日22時の彗星の位置である。通常は、さまざまな軌道要素を正確に入力して計算するのだが、「ステラナビゲーター」は、最新の彗星や小惑星のデータが、自動的に更新される。おかげで、任意の日時の彗星の位置、尾の形状や向き、それに予想等級まで計算してくれる。

図の「黄道」は「太陽の通り道」である。この時刻、太陽は彗星の右側(西側)にあるので、尾はその逆の左側(東側)に流れていることがわかる。この時期、彗星は「おうし座」に入っていて、アルデバランやベテルギウス星団(すばる)にも近いので、双眼鏡があれば、すばらしい光景が楽しめるだろう。



上の写真は 2009 年に観測された「ルーリン彗星」である(北軽井沢/田中)。尾はよく見えない。実は、肉眼で見た場合、この写真のように彗星中心部(核)の周囲に、青緑色の光芒が見えることが多い。今回の彗星も、肉眼や双眼鏡では、このように見えると思われる。下の写真は、東京都内で撮影した彗星の例だ。彗星は都会でも見えることがあるので、期待したい。



「サンシャイン 60 とヘールボップ彗星」

1997 年/お茶の水女子大学構内/撮影 ; C. Tanaka

“月刊天文”(天文専門雑誌) 入選作品